資料３

業務実績に関する評価意見【全体評価】

業務実績全体についてご意見等がある場合は、下記に記載してください。
※項目別評価に関する個別意見がある場合は、様式②に記載してください。

【令和３年度業務実績に関する評価について】
（全般的事項、特筆すべき成果、今後に対する意見等）
■花泉委員長
【全体的事項】
・⑤C 評価の項目が 2 つあるが、いずれもコロナ禍に起因するものであることを考慮すると、全体としては良好な実施状況であったと言える。

【特筆すべき成果】
・⑦コロナ禍が現在まで複数年にわたって続いていることは、理工系、特に実験系の研究室にとっては大きなマイナス要素であるが、その中で論文投稿数を前年度に対して１割増やしたことは特に注目すべき成果と言える。

【今後に対する意見】
・⑫学科再編については、その効果の検証も併せて進めてほしい。2 年次に進級する際の所属プログラムの決定方法なども、学生の満足度が高いことが望ましい。
・⑮コロナ禍は先が読めない状況が続いているため、国際交流及び地域貢献事業については、コロナ禍を前提とした計画も併せて検討し、その確実な履行が望まれる。
・⑱論文投稿数の増加については、一過性のものであってはならないので、要因の分析と共に、組織的な取り組みを継続して行うことが必要である。

■後藤委員
①令和 3 年度は第 2 期中期目標期間の 3 年目の事業年度であるとともに、令和 4 年度から開始される 2 学群制による新課程の準備を進める年度でもありました。旧課程で教育を実施しつつ新課程の体制を整える必要がある中で、年度計画の実施状況では 2 項目を除き、年度計画通りもしくはそれを上回って実施されたことは高く評価できます。
　特に、年度計画を上回って実施された 4 項目は、計画を上回って実施することにより、新課程の教育充実により貢献できるものであると考えます。学術団体論文誌などへの論文投稿数は、投稿数が R2 年度に比べて 1 割増加しただけでなく、論文掲載数も R2 年度の 1.5 倍となっており、量と質の両方で成果が上がっています。また、⑩共同研究の充実や災害対策の関する計画があげられています。その背景には、R3 年度から就任した新理事長、新学長の体制のもと、学術研究を重視する体制になったことに加え、研究活動の中心を担う地域連携推進センターの活動の充実や、サマーレビューの実施による重点事業の選定と課題解決との関連が考えられます。このように、R3 年度からの新たな体制と運営方針がとても良い影

響を及ぼしており、これまで以上にスピード感をもって改革が進むことが期待できます。学内ネットワークの更新については、⑨新課程で学生の BYOD（Bring Your Own Device）による教育 DX（Digital Transformation）に取り組む基盤となる計画であり、効果的な活用による教育効果を期待したいと思います。

一方で、取組の遅れた地域貢献と国際交流に関する 2 項目も、大学の事業において重視されている計画であるため、対応が求められます。⑥新型コロナウイルス感染拡大防止の影響によるものですが、With コロナへの観点から事業の推進の工夫が求められると考えます。

その他、計画通りに実施した項目の中にも、改革が進んでいる項目があります。例えば、⑰学部教育に関する目標を達成する措置として、新課程のディプロマポリシー（DP）に含まれる 13 能力要素が明示され、各授業科目と DP との関連を明記したことは、教育の質保証として重要な成果と考えます。今後は、教育効果を検証し、教育改善につなげるための仕組みの構築に期待したいと考えます。

■石井委員

・④B 評価がとても多く全体として計画とおりに進められているのかなと感じました。

・前提として⑯中期計画はコロナ発生前に作成されいるものに対して、内容によっては令和２年度計画で無理くり計画を練り直し、中期計画を達成するための動きなのかなと思う点もありました。それに対しての自己評価をつけることに対しての疑問がありました。コロナ禍において社会が変化し求めることも求められることも変化をしているので中期計画の修正なども視野を入れて、今の実態・今後の実態にあった計画を上げることも必要になるのではないかとおもいました。

■伊藤委員

（全体的事項）

②年度計画と実績を検討した結果、全体として、概ね適正に評価が行われていると判断します。

その中で、全体の 97%以上の項目が A 評価又は B 評価となっており、年度計画を着実に実行できていると思います。

（特筆すべき成果）

A 評価となっている項目はいずれも特筆すべき項目であると考えます。

その中でも、⑲＜No.22：共同研究の充実に関する計画＞に関しては、高齢化や団地の老朽化等が問題となる中で、連携協定締結機関と協力して、地域再生に向けた共同研究を具体的に進めることが出来たことは、非常に評価できる取組だと思います。また、今回の共同研究は、学生にとっても、企業の方だけでなく地域住民の方々など、学外の様々な人と交流を図ることで、自分たちが行った活動の成果を直接実感できることに繋がるため、キャンパス内だけでは学ぶことのできない貴重な経験になると思いますので、学生の学びの視点からも非常に評価できると考えます。広瀬団地と同様の状況にある団地や地域は今後も増えていくと思い

ますので、将来的には、今回の共同研究を他の地域にも活用できるように進めていけることを期待します。
また、⑳＜No.79：学内ネットワークシステムに関する計画＞に関しましても、社会全体でのデジタル機器の活用が進む中で、これからの大学の授業でも PC 等デジタル機器の使用が必要不可欠だと思いますが、授業の受講者全員が利用可能なネットワーク環境を通信速度を大幅に増強させた形で整備したことは、⑧学生の学修環境の改善だけでなく、授業のやり方や効率性を改善することにも繋がるため、非常に評価できる取組だと思います。

（今後に対する意見等）
⑬業務実績に関する報告書 P.21「中期計画における数値目標の達成状況」についてですが、目標値として設定した項目は、必ず達成すべき目標として大学が力を入れて取り組んでいる項目という理解ですが、今年度時点で目標値を達成していない項目に関しましては、未達成の理由と達成するための対応策等の説明があると、評価する際に状況がよりわかりやすいと思います。

■小島委員
意見なし

■高山委員
③新型コロナウイルスの感染拡大により、実施に際して制約を受けた業務があったが、全体としては年度計画に沿って実施されており、概ね順調な進捗状況にあるといえる。
№28「おとなの科学教室の開催」、№34「海外語学研修支援」は、新型コロナウイルス感染防止が優先され、⑪当初の計画が実施できなかったため、いずれもC評価とするのはやむを得ないであろう。前者については、オンラインによる実施への変更も可能であったかもしれないが、高齢者をおもな受講対象者として想定している点を鑑みれば現実的ではない。その点では、後者についてはオンラインによる海外語学研修も可能な状況にあるので、今後の対応を検討されたい。

特筆すべき成果として挙げられている事項ついて。
№22「りょうもうアライアンスを活用した民間企業等との共同研究の充実」について、契約上、具体的な情報の公開はむずかしい点があると思われるが、⑭A評価とした根拠として件数を示していただければと思う。
№77「災害対策に関する計画」については、年度計画を上回って実施されたという点でA評価とされたと思われるが、防災対策は進捗の度合いよりもその対策の内容に目が向けられがちである。また、想定される災害に対し、どの程度まで対策をすればよいかという判断もむずかしい。進捗の度合いが予定より進んだという点で評価できるとしても、その一方で、これまでの災害対策が遅れていたことを示すことになってしまうのではないか。

㉑№79「学内ネットワークシステムの整備」については高く評価したい。今後、すぐれたインフラが構築されたことで、今後はそれをふまえた教育研究機関としての新たな可能性を追究してほしい。